【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】令和2年7月2日(2020.7.2)

【公表番号】特表2018-527276(P2018-527276A)
【公表日】平成30年9月20日(2018.9.20)
【年通号数】公開・登録公報2018-036
【出願番号】特願2017-568238(P2017-568238)
【国際特許分類】
Ｃ０３Ｃ　27/12　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　17/10　(2006.01)
Ｂ６４Ｃ　1/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０３Ｃ　27/12　Ｍ
Ｃ０３Ｃ　27/12　Ｄ
Ｃ０３Ｃ　27/12　Ｆ
Ｂ３２Ｂ　17/10
Ｂ６４Ｃ　1/14

【誤訳訂正書】
【提出日】令和2年5月22日(2020.5.22)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００６】
【図１】図１は、積層グレージングの、外部雰囲気と接触しているガラス板の様々な厚さに関して、最適な設定温度の曲線を、制御点における加熱電力に対する低温点での加熱電力の比Ｋｃの関数として示す。
【図２ａ】図２ａは、既知の加熱積層グレージングの模式図を表している。
【図２ｂ】図２ｂは、本発明に係るグレージングユニットの模式図を表している。
【図３ａ】図３ａは、種々の構成の積層グレージングに関しての、加熱電力の曲線を示す。
【図３ｂ】図３ｂは、種々の構成の積層グレージングに関しての、加熱電力の減少を示す。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１１】
本発明の積層グレージングの他の好ましい特徴によると：
－　本発明の積層グレージングが、第２接着性中間層によって第１構造層に組み合わされている第２構造層を有している；
－　本発明の積層グレージングが、第３接着性中間層によって上述の第１構造層又は上述の第２構造層に組み合わされている、０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの第２ガラス板を有している；
－　上述の第２ガラス板が、積層グレージングの第２外側面を形成しており、かつ、上述の第３接着性中間層の方向に向いている上述の第２ガラス板の面が、２オングストロー

ム～５００ｎｍの厚さの第２伝導性加熱層を保持している；
－　上述の第２伝導性加熱層が、０．０５ｍｍ～０．２ｍｍの厚さの流れ分離ラインを有しており、上述のラインが、８ｍｍ～２０ｍｍの間隔をあけて配置されている；
－　上述の第１構造層及び上述の第２構造層が、それぞれ、互いに独立に、４ｍｍと１０ｍｍの間に含まれる厚さのガラス板からなり、又は５ｍｍと２０ｍｍの間に含まれる厚さのポリマー材料からなる；特には輸送車両を対象とする場合に、積層グレージングの重量を制限することが推奨される：すべての構造層がポリマー材料製である場合に、例えば、すべての構造層の厚さの合計が、３０ｍｍを超えない；
－　上述の第１構造層及び上述の第２構造層が、それぞれ、互いに独立に、化学的に強化された若しくは半熱強化を受けたガラス板からなり、又は、ポリメチルメタクリレート（ＰＭＭＡ）若しくはポリカーボネート（ＰＣ）からなる；
－　０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの上述の第１ガラス板及び０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの上述の第２ガラス板が、化学的に強化されている；
－　上述の第１接着性中間層、上述の第２接着性中間層、及び上述の第３接着性中間層が、互いに独立に、０．５ｍｍ～２０ｍｍの厚さの、好ましくは１ｍｍ～１６ｍｍの厚さの、ポリビニルブチラール（ＰＶＢ）の層、ポリウレタン（ＰＵ）の層又はエチレンビニルアセテート（ＥＶＡ）の層からなる；
－　上述の第１伝導性加熱層及び上述の第２伝導性加熱層が、互いに独立に、２０ｎｍ～５００ｎｍの厚さの伝導性酸化物の層、例えば、スズでドープされた酸化インジウム（ＩＴＯ）、フッ素でドープされた酸化スズ（SnO_2：Ｆ）若しくはアルミニウムでドープされた酸化亜鉛（ＡＺＯ）の層、又は、２オングストローム～１００オングストロームの厚さの金属の層、例えば金の層、からなる；
－　流れ分離ラインが、実質的に平行なラインとして配置されており、これらのラインが、それらの２個のそれぞれの電流供給ストリップに対して実質的に直交して接続されており、かつ、上述の２個の向かい合うストリップ又は上述の２個のストリップの部分が、互いに対して若しくはそれぞれに対して角度をもっている場合には、これらのラインが、曲率を有しており又は屈曲している；この構成によって、加熱された積層グレージングの全領域にわたって、温度の均一性の程度が増大する：低温領域若しくは低温点が回避され、及び／又は、高温点と低温点との間での差異が減少する；
－　上述の第１伝導性加熱層又は上述の第２伝導性加熱層が、厚さの勾配を有している；伝導性加熱層の全領域にわたって、電気抵抗の差異をもたらすことが課題であり、ここで再び、寒冷条件下において、加熱グレージングの全領域にわたる温度均一性を向上させることが目的である。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１２】
本発明の他の主題は：
－　上記の積層グレージングの、ヘリコプター又は航空機の操縦席グレージングとしての使用；
－　霜防止グレージングとしての、そのような使用；「霜防止」という用語は、外部雰囲気側で、積層グレージングの外側面での霜の形成を防止する機能を指している；その場合には、この面を形成しているガラス板が、本発明に係る伝導性加熱層を保持している；
－　曇り防止グレージングとしての、そのような使用；ここで、これによって意味されるのは、車両の内部側において、積層グレージングの外側面において、曇りの形成を防止する（実際の曇り防止機能）ということであり、又は、さらには、曇りを消す（曇り除去機能）ということである；その場合には、この面を形成しているガラス板が、本発明に係る伝導性加熱層を保持している。

【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２５】
図２ａ及び２ｂにおいて示される２種の組み立て構成の一定部分を、合計の厚さが典型的には５ｍｍ～３０ｍｍであるＰＭＭＡ若しくはＰＣの１層の層又は２層の層によって置き換えてもよい。これらの小さい厚みは、どちらかといえば、ヘリコプター用途に対応する。ポリマー材料製の２層の構造層は、ポリウレタンの層によって互いに接着的に結合されていてよい。
本開示に含まれる態様は、下記のとおりである。
＜態様１＞
第１接着性中間層（３）によって０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの第１ガラス板（２）に組み合わされている第１構造層（４）を有している積層グレージング（１）であって、前記第１ガラス板（２）が、前記積層グレージング（１）の第１外側面（２１）を形成していること、前記第１接着性中間層（３）の方向に向いている前記第１ガラス板（２）の面が、２オングストローム～５００ｎｍの厚さの第１伝導性加熱層（１１）を保持していること、及び、前記第１伝導性加熱層（１１）が、８ｍｍ～２０ｍｍの間隔をあけて配置されている０．０５ｍｍ～０．２ｍｍの厚さの流れ分離ラインを有しており、前記ラインが、エッチングによって形成されていて、それによって、前記グレージング（１）の２つの対向端部に沿って配置されている２個の電流供給ストリップの間で電流を誘導することを特徴とする積層グレージング（１）。
＜態様２＞
第２接着性中間層（５）によって前記第１構造層に組み合わされている第２構造層（６）を有していることを特徴とする、態様１に記載の積層グレージング（１）。
＜態様３＞
第３接着性中間層によって前記第１構造層（４）又は前記第２構造層（６）に組み合わされている０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの第２ガラス板を有していることを特徴とする、態様１又は２に記載の積層グレージング（１）。
＜態様４＞
前記第２ガラス板が、前記積層グレージング（１）の第２外側面（２２）を形成していること、及び、前記第３接着性中間層の方向に向いている前記第２ガラス板の面が、２オングストローム～５００ｎｍの厚さの第２伝導性加熱層を保持していることを特徴とする、態様３に記載の積層グレージング（１）。
＜態様５＞
前記第２伝導性加熱層が、０．０５ｍｍ～０．２ｍｍの厚さの流れ分離ラインを有しており、前記ラインが、８ｍｍ～２０ｍｍの間隔をあけて配置されていることを特徴とする、態様４に記載の積層グレージング（１）。
＜態様６＞
前記第１構造層（４）及び前記第２構造層（６）が、それぞれ、互いに独立に、４ｍｍと１０ｍｍの間に含まれる厚さのガラス板からなり、又は、５ｍｍと２０ｍｍの間に含まれる厚さの重合体からなることを特徴とする、態様１又は２に記載の積層グレージング（１）。
＜態様７＞
前記第１構造層（４）及び前記第２構造層（６）が、それぞれ、互いに独立に、化学的に強化された若しくは半熱強化を受けたガラス板からなり、又は、ポリメチルメタクリレート（ＰＭＭＡ）若しくはポリカーボネート（ＰＣ）からなることを特徴とする、態様６に記載の積層グレージング（１）。
＜態様８＞

０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの前記第１ガラス板（２）及び０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの前記第２ガラス板が、化学的に強化されていることを特徴とする、態様１又は３に記載の積層グレージング（１）。

＜態様９＞

前記第１接着性中間層（３）、前記第２接着性中間層（５）、及び前記第３中間接着層が、互いに独立に、０．５ｍｍ～２０ｍｍの厚さの、好ましくは１ｍｍ～１６ｍｍの厚さの、ポリビニルブチラール（ＰＶＢ）、ポリウレタン（ＰＵ）又はエチレンビニルアセテート（ＥＶＡ）の層からなることを特徴とする、態様１～３のいずれか一項に記載の積層グレージング（１）。

＜態様１０＞

前記第１伝導性加熱層（１１）及び前記第２伝導性加熱層が、互いに独立に、２０ｎｍ～５００ｎｍの厚さの伝導性酸化物の層、例えば、スズでドープされた酸化インジウム（ＩＴＯ）、フッ素でドープされた酸化スズ（SnO_2：Ｆ）若しくはアルミニウムでドープされた酸化亜鉛（ＡＺＯ）の層、又は２オングストローム～１００オングストロームの厚さの金属の層、例えば金の層、からなることを特徴とする、態様１又は４に記載の積層グレージング（１）。

＜態様１１＞

前記流れ分離ラインが、実質的に平行な線で配置されており、これら平行な線が、それらの２個のそれぞれの電流供給ストリップに対して実質的に直交して接続しており、かつ、前記２個の対向するストリップ又は前記２個のストリップの部分が互いに対して若しくはそれぞれに対して角度を持っている場合には、曲率を有しており又は屈曲していることを特徴とする、態様１又は５に記載の積層グレージング（１）。

＜態様１２＞

前記第１伝導性加熱層（１１）又は前記第２伝導性加熱層が、厚さの勾配を有していることを特徴とする、態様１又は４に記載の積層グレージング（１）。

＜態様１３＞

態様１～１２のいずれか一項に記載の積層グレージング（１１）の、ヘリコプター又は航空機の操縦室グレージングとしての使用。

＜態様１４＞

霜防止グレージングとしての、態様１３に記載の使用。

＜態様１５＞

曇り防止グレージングとしての、態様１３又は１４に記載の積層グレージング（１１）の使用。

【誤訳訂正５】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

第１接着性中間層（３）によって０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの第１ガラス板（２）に組み合わされている第１構造層（４）を有している積層グレージング（１）であって、

前記第１ガラス板（２）が、前記積層グレージング（１）の、外部雰囲気と接触することが意図されている第１外側面（２１）を形成していること、

前記第１接着性中間層（３）の方向に向いている前記第１ガラス板（２）の面が、２オングストローム～５００ｎｍの厚さの第１伝導性加熱層（１１）を保持していること、

前記第１伝導性加熱層（１１）が、８ｍｍ～２０ｍｍの間隔をあけて配置されている０．０５ｍｍ～０．２ｍｍの厚さの流れ分離ラインを有しており、前記ラインが、エッチングによって形成されていて、それによって、前記グレージング（１）の２つの対向端部に沿って配置されている２個の電流供給ストリップの間で電流を誘導すること、

前記第１構造層（４）が、４ｍｍと１０ｍｍの間に含まれる厚さのガラス板からなり、又は、５ｍｍと２０ｍｍの間に含まれる厚さのポリマー材料からなること、及び、
前記第１接着性中間層（３）が、０．５ｍｍ～２０ｍｍの厚さの、好ましくは１ｍｍ～１６ｍｍの厚さの、ポリビニルブチラール（ＰＶＢ）、ポリウレタン（ＰＵ）又はエチレンビニルアセテート（ＥＶＡ）の層からなること
を特徴とする、
積層グレージング（１）。
【請求項２】
第２接着性中間層（５）によって前記第１構造層に組み合わされている第２構造層（６）を有していることを特徴とする、請求項１に記載の積層グレージング（１）。
【請求項３】
第３接着性中間層によって前記第１構造層（４）又は前記第２構造層（６）に組み合わされている０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの第２ガラス板を有していることを特徴とする、請求項１又は２に記載の積層グレージング（１）。
【請求項４】
前記第２ガラス板が、前記積層グレージング（１）の第２外側面（２２）を形成していること、及び、前記第３接着性中間層の方向に向いている前記第２ガラス板の面が、２オングストローム～５００ｎｍの厚さの第２伝導性加熱層を保持していることを特徴とする、請求項３に記載の積層グレージング（１）。
【請求項５】
前記第２伝導性加熱層が、０．０５ｍｍ～０．２ｍｍの厚さの流れ分離ラインを有しており、前記ラインが、８ｍｍ～２０ｍｍの間隔をあけて配置されていることを特徴とする、請求項４に記載の積層グレージング（１）。
【請求項６】
前記第１構造層（４）及び前記第２構造層（６）が、それぞれ、互いに独立に、４ｍｍと１０ｍｍの間に含まれる厚さのガラス板からなり、又は、５ｍｍと２０ｍｍの間に含まれる厚さのポリマー材料からなることを特徴とする、請求項１又は２に記載の積層グレージング（１）。
【請求項７】
前記第１構造層（４）及び前記第２構造層（６）が、それぞれ、互いに独立に、化学的に強化された若しくは半熱強化を受けたガラス板からなり、又は、ポリメチルメタクリレート（ＰＭＭＡ）若しくはポリカーボネート（ＰＣ）からなることを特徴とする、請求項６に記載の積層グレージング（１）。
【請求項８】
０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの前記第１ガラス板（２）及び０．５ｍｍ～１．５ｍｍの厚さの前記第２ガラス板が、化学的に強化されていることを特徴とする、請求項１又は３に記載の積層グレージング（１）。
【請求項９】
前記第１接着性中間層（３）、前記第２接着性中間層（５）、及び前記第３中間接着層が、互いに独立に、０．５ｍｍ～２０ｍｍの厚さの、好ましくは１ｍｍ～１６ｍｍの厚さの、ポリビニルブチラール（ＰＶＢ）、ポリウレタン（ＰＵ）又はエチレンビニルアセテート（ＥＶＡ）の層からなることを特徴とする、請求項１～３のいずれか一項に記載の積層グレージング（１）。
【請求項１０】
前記第１伝導性加熱層（１１）及び前記第２伝導性加熱層が、互いに独立に、２０ｎｍ～５００ｎｍの厚さの伝導性酸化物の層、例えば、スズでドープされた酸化インジウム（ＩＴＯ）、フッ素でドープされた酸化スズ（SnO_2：Ｆ）若しくはアルミニウムでドープされた酸化亜鉛（ＡＺＯ）の層、又は２オングストローム～１００オングストロームの厚さの金属の層、例えば金の層、からなることを特徴とする、請求項１又は４に記載の積層グレージング（１）。

【請求項１１】
前記流れ分離ラインが、実質的に平行な線で配置されており、これら平行な線が、それらの２個のそれぞれの電流供給ストリップに対して実質的に直交して接続しており、かつ、前記２個の対向するストリップ又は前記２個のストリップの部分が互いに対して若しくはそれぞれに対して角度を持っている場合には、曲率を有しており又は屈曲していることを特徴とする、請求項１又は５に記載の積層グレージング（１）。
【請求項１２】
前記第１伝導性加熱層（１１）又は前記第２伝導性加熱層が、厚さの勾配を有していることを特徴とする、請求項１又は４に記載の積層グレージング（１）。
【請求項１３】
請求項１～１２のいずれか一項に記載の積層グレージング（１１）の、ヘリコプター又は航空機の操縦室グレージングとしての使用。
【請求項１４】
霜防止グレージングとしての、請求項１３に記載の使用。
【請求項１５】
曇り防止グレージングとしての、請求項１３又は１４に記載の積層グレージング（１１）の使用。